

現行「基本構想」振り返りの視点

「基本構想」「基本計画」の策定経緯

- ・基本構想…市の最高理念であり、21世紀における基本姿勢を市会の議決を経て示したものの。
- ・基本計画…基本構想に描かれた都市像の実現をめざし、まちづくりの基本的な姿勢を示すもの。

	1965年～ (昭和40年)	1974年～ (昭和49年)	1986年～ (昭和61年)	1993年～ (平成5年)	2011年～ (平成23年)
基本構想		人間都市神戸の基本構想 1974年(昭和49年)策定 20年		新・神戸市基本構想 1993年(平成5年)策定 33年	
基本計画 ・区別計画	〈第1次〉 神戸市総合基本計画 1965年 11年 (昭和40年)策定	〈第2次〉 人間都市神戸の基本 計画 1976年 10年 (昭和51年)策定	〈第3次〉 人間都市神戸の基本 計画(改定) 1986年 9年 (昭和61年)策定	〈第4次〉 第4次神戸市基本 計画 1995年 15年 (平成7年)策定 区別計画 1996年 (平成8年)策定	〈第5次〉 第5次神戸市基本 計画 2011年 15年 (平成23年)策定 ・神戸づくりの指針 ・神戸2015ビジョン ・各区計画
中期計画	神戸市生活環境基準 新・神戸市生活環境基準 第3次神戸市生活環境基準		神戸市都市環境基準 新・都市環境基準		神戸2010ビジョン 2005年 (平成17年)策定 区中期計画 2005年 (平成17年)策定 (基本計画に統合)

(参考) 1991年 第六次空港整備五箇年計画(平成3～7年度)が閣議決定。神戸空港計画が予定事業に組み入れられる。

○新・神戸市基本構想

(平成5年9月20日議決)

地球社会において、人間性豊かな“市民の暮らし”とその基盤となる“都市の魅力と活力”を、市民が主体となって創造していく

「世界とふれあう市民創造都市」

を、2025年に向けた、神戸の都市づくりの基本理念とする。

この基本理念の実現にあたっては、

「ともに築く人間尊重のまち」

「福祉の心が通う生活充実のまち」

「魅力が息づく快適環境のまち」

「国際性にあふれる文化交流のまち」

「次代を支える経済躍動のまち」

の5つの都市像を掲げ、相互の連携を図りつつ、総合的にまちづくりを進めていく。

基本理念の実現に向けた5つの都市像（まちづくりの方向性）

5つの都市像を掲げ、相互の連携を図りつつ、総合的にまちづくりを進めていく。

① ともに築く人間尊重のまち

- ✓ 差別のない社会
- ✓ 男女共同参画型社会の実現

同和問題に加え、性別・障害・疾病による差別意識が問題視されていた。男女格差の視点では、1993年に「婦人問題に関する全国女性リーダー会議」が開催され、**女性の社会参画への意識が高まってきていた**。また、仕事以外での自己実現の考え方の重要度が高まってきていた。

- ✓ 市民主体の地域社会づくり
- ✓ 市政への市民参加の推進

1980年代から神戸市は、地域自らがまちの将来像を作成・提案するいわゆる「**まちづくり協議会方式**」を全国に先駆けて制度化している。そのような状況を受け、1990年には地域からのまちづくりを進める「ふれあいまちづくり条例」を制定し、より**行政地域協働での取り組みが進んできていた**。

- ✓ 市域を越えた広域的協力の推進

広域的な視点は、当初は道路・ごみ・し尿処理などのハードと紐づきの強いシステム整備からスタートし、1970年代には文化・教育・スポーツなどのサービスシステム整備がすすめられた。1991年には「広域行政圏計画策定指針」が示され、より**具体的な形での広域的課題解決が求められてきていた**。

② 福祉の心が通う生活充実のまち

- ✓ 真に豊かな消費生活の実現
- ✓ 家庭生活を支える仕組み作り

バブル崩壊を受けて、1990年代前半は、多重債務者問題やマルチ商法被害などが増加していた。そのような状況の中で、消費生活の考え方に「暮らしの安全」や「心のゆとり」といった考え方が登場し、長期的なスパンでの消費を見つめるようになった。

- ✓ 福祉環境の充実
- ✓ 生涯にわたる健康づくりの実現

1993年頃は、厚生労働省が「健康づくりのための運動指針」を策定するなど健康づくりを推進していたこともあり、自治体において健康づくりセンターの設置、協議会発足等の「健康づくり」の政策に多くが取り組みを進め始めていた。

- ✓ 誰もが住み続けたいくなるまちづくりの推進

1993年頃は、中核都市制度が創設（地方自治法一部改正）され、権限拡大による自主性・自律性の向上とともに全国における地方分権・市域主権の推進に貢献する必要性から住民サービスの向上や個性的なまちづくりの積極的推進が求められてきていた。

当時の状況

③ 魅力が息づく快適環境のまち

- ✓ 自然や環境にやさしい都市の創造

1970年以降は、環境問題の早急な対策の必要性が指摘され、その結果、1992年に「地球サミット」が開催された。国際的な取組みに関する行動計画である「アジェンダ21」が採択され、その流れも受けて日本では建設省が環境共生モデル都市（エコシティ）の指定・展開をスタートさせていた。

- ✓ 災害に強く、安心して暮らし、働けるまちづくり

伊勢湾台風や東海地震を想定した関連法の考えに基づき、実際に起きた災害への対策に主眼を置き、災害を制御可能と捉える対策が国内で講じられてきた。一方、国連では1990年代を「国際防災の10年」と定めるなど国際社会の関心が災害発生前の取組へと徐々にシフトしていた。

- ✓ 神戸の資源を活かした魅力にあふれる都市づくり

1996年に訪日外国人旅行者数を倍増させる目標の「ウェルカムプラン21」を運輸省が策定。1998年には、市街地の整備改善、商業等の活性化を一体的に推進する中心市街地活性化法が制定され、まちの個性を活かした魅力づくりに全国的に取り組んでいた。

当時の状況

④ 国際性にあふれる文化交流のまち

- ✓ 国際化先進都市を目指した都市機能の充実・強化

1980年代後半から90年代前半にかけて市町村レベルでの国際化が意識されるようになった。その時代には、単なる姉妹都市締結の文化交流にとどまらない国際協力や、国際会議や国際見本市の開催、複数の自治体間での地域間交流体制の構築が行われるようになってきていた。

- ✓ 生涯を通じた学びの場
- ✓ スポーツ・レクリエーションの振興

生涯学習の面では、1992年に「生涯学習の振興方策（略称）」の重点課題としてリカレント教育などが示され、成人にとっても多様な学び・経験の重要度が認識され始めていた。また、文化面においては、1990年代は文化財保護の観点だけではなく、地域のシンボルとしての多目的ホールの建設が進み始めていた。

- ✓ 情報化社会への対応
- ✓ 個性を生かした先進的な都市演出

1995年には、Microsoft社のWindows95が発売によるインターネットの一般化に加え、携帯電話も一般利用が進み始めていた。それらの影響も受け、2000年代からは、地方公共団体の中でも、IT企業の誘致に取り組む団体も一定数出てきており、情報化社会への転換が進み始めていた。

⑤ 次代を支える経済躍動のまち

- ✓ 活力ある神戸経済の実現

1990年前半は円高が進み、日本企業の工場建設等の海外進出が進み、国内産業の空洞化などが大きな問題の一つとして挙げられていた。空洞化した付加価値を埋めるため、資本・技術強化による国内産業の高付加価値化などが求められていた。

- ✓ 都市圏交通の形成や海・空・陸の広域交流拠点の形成

1992年は、東京一極集中の問題意識の高まりもあり、地方拠点での都市機能増進などの整備促進に向けた「地方拠点法」が制定された。また、市町村の都市計画に関する基本的な方針を定める「都市計画マスタープラン」も創設され、より市町村単位でのまちづくりの重要度が高まってきていた。

- ✓ 研究開発拠点の形成など
- ✓ 高次都市機能の強化

1990年代は、バブル崩壊や国内産業の空洞化などもあり、産業集積での効率化などによる産業競争力の強化が求められていた。国は、そのような状況もあり、2002年に「経済財政運営と構造改革に関する基本方針」を出し、構造改革特区の導入や知的クラスター創生事業の推進などに取り組んでいた。

令和5年11月 外部有識者による現行「基本構想」振り返り時の主な意見①

○引き続き大切にすべき観点

※反映箇所欄の「①」等の数字は次期・基本構想素案への反映段落

項目	意見の内容	反映箇所
持続可能な成長	・ 今でも重要な価値観 。神戸市で活動していると、 まちの長所として持続可能な発展の視点が根付いている と感じる。	未来への承継をより意識し以下で表現 ④未来に向けて進んでいく ⑦次の世代に紡いでいきます
国際性	・ 多様な文化を育んできた歴史的経緯のある国際都市であることは強み 。	①海外との交流を重ね 文化や流行を日本に生み出してきました
神戸空港	・ 現・基本構想の「 海・空・陸の広域交流拠点をつくる 」という表現は、 神戸空港の国際化によりますます重要な要素 。	⑤世界を臨む海や空からひとが集い
界索性	・ 海、山、街が揃う神戸市において大切なキーワード	まちの生活感から感じる雰囲気以下で表現 ②多彩な表情を見せるまち 洗練されたまち並みと下町の活気
市民主体	・ 市民が主体的に地域参加を進める等、 市民主体の視点が落とし込まれているのは、福祉のまちづくりの観点からも素晴らしい 。	多様な繋がりによるまちづくりを重視し表現 ④これからも世代や立場を超えた繋がりの中で未来に向けて進んでいきます
多様性	・ 例えばムスリムの方のお祈りについて、日本の企業では理解や支援がされにくい部分があるが、そういった 文化への理解が浸透すると良い 。	③多様性を認める明るい気風
生活の質 生き方の選択	・ 当時からすると先駆的。 ・ 福祉は自分で選べない人をサポートするが、 各人が生き方を選択できれば社会的弱者も生きやすく、住みやすいまちになる 。	⑤それぞれの夢を実現できるまちへ ⑤ゆとりある暮らしができるまちへ
個性	・ 神戸は個性が発揮できるまち 。大都市であれば頑張ってもなかなか評価されないが、神戸では評価される。	⑤それぞれの夢を実現できるまちへ

令和5年11月 外部有識者による現行「基本構想」振り返り時の主な意見②

○新たに追加すべき観点

※反映箇所欄の「①」等の数字は次期・基本構想素案への反映段落

項目	意見の内容	反映箇所
災害からの教訓	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪神淡路大震災やコロナ禍の教訓も大切な要素として残したい。 	③幾度となく困難を乗り越えた絆
挑戦	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神戸市は昔から誰でも受け入れるという素地がある。失敗に寛容で、誰もが挑戦でき、イノベーションを起こせる街として打ち出せば、若者が集まって色々な取り組みが生まれるのではないか。 ・ 何かチャレンジするときに先達や周囲の人がサポートしてくれる都市になると良い。 	⑥新たな価値の創造に挑戦し続けるまちへ
互助・共助	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的弱者への支援について、新しい取り組みが行政以外から沢山生まれている。人と人がしっかり支え合って社会が創られているという打ち出しができるが良い。 ・ 阪神淡路大震災を乗り越えた神戸市民だからこそ「みんなで支えていく」ことが今後ますます重要。 ・ デジタルディバイド関連として、機械化や無人化の流れの中、困った人をサポートするといった共助の取り組みが広がれば良い。 	③幾度となく困難を乗り越えた絆 ⑤誰もがひとに寄り添い、助け合いながら
区の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9区で様々なライフスタイルがある点が良いといった意見をよく聞く。各地域へのアクセスが良く、近距離に多様な魅力が詰まっている点は強み。 	②神戸は、“多彩な表情を見せるまち”です 都会と里山の共存 洗練されたまち並みと下町の活気

○基本構想の構成等

項目	意見の内容
ボリューム	・わかりやすさや伝わりやすさが重要。簡潔でボリュームは落とすべき。
引き継ぐ要素	・引き続き大切にすべき観点は、時代に即して再定義する、時代に合ったわかりやすい表現にするという視点も重要。
全体の構成	・まちの目指す方向性を示し、その中で市民等が自由に発展していけるような創造力を育む構成にしたい。 ・数十年後に見ても、まちの実情と異なる内容にならないようにしつつ、どのようなまちになりたいか、神戸の強みも考慮した上で踏み込んで記載すべき。 ・自治体としてどうあるべきかではなく、社会の中でどうあるべきかといった、自治体としての存在意義も示す必要がある。
参加者への周知	・子ども達から意見を聞いていることはとても良い。出来上がった構想を、子どもを含むアンケートやワークショップの参加者が見ることができる機会があり、内容が理解されるようにすることも大切。

- ・ 現行「基本構想」の評価、引継ぐべきもの等について
- ・ 次期「基本構想」の策定に際し、留意すべき視点等について